

幸田弘子の会

出演 ● 幸田弘子
演出 ● 池田一臣

一葉の夕べ

運命に翻弄される男と女
辿りつく先は……

あら
の
「**曠野**」

堀辰雄

友情出演 ● 大和田葉子 ラールト
作 曲 ● 坂田洸隆

「**にっこりえ**」

樋口一葉

音楽 ● 宇野誠一郎



平成19年10月3日(水)～5日(金)
紀尾井小ホール

●開演時間 *公演日により、開演時間が異なります。十分ご注意ください。

| 10/3(水) | 10/4(木) | 10/5(金) |
|---------|---------|---------|
| 午後3時 | 午後2時 | 午後2時 |
| 午後7時 | 午後7時 | 午後7時 |

●入場料

一般4,500円 学生3,000円(全席指定)

●予約・お問い合わせ

幸田弘子の会 ☎(03)3655-2705
(10時～6時、土・日・祝休)
E-mail: kodahirokonokai@m6.gyao.ne.jp

●前売券取扱

紀尾井ホール・チケットセンター
☎(03)3237-0061
(10時～7時、日・祝休)

幸田弘子の会 一葉の夕べ

「曠野」は、昭和16(1941)年に描かれた堀辰雄の王朝物語シリーズの代表作のひとつです。

「今昔物語」に拠った作品で、舞台は西の京の六條のほとり、主人公は中務大輔の娘。父の死をきっかけに暮らし向きが悪くなるなかで、娘は愛する夫・兵衛佐と離れ離れになります。

そして時が経ち、地方の郡司の婢となっていた娘は、主人の命にしたがい、新しく赴任してきた国主のもとへとつかわれます。

それは、かつての夫・兵衛佐でしたが、男も女もそれに気づくことなく一夜をともにします。そして……。運命に翻弄される女のはかなく悲しい姿を、しずかな筆致で描いた名作です。

「にぎりえ」は、樋口二葉の代表作のひとつで、

明治28(1895)年、亡くなる二年前に発表された作品です。

7月16日の盃盆会の頃、銘酒屋「菊の井」の一番看板であるお力を中心として物語は展開します。

一見、奔放に生きながら、内に秘めた暗い情念のとりこになり、運命に身を任せていくお力。

何処にも逃げ場のない「にぎりえ」の世界で、

制御できない情熱に取りつかれた男女の悲劇を、力強い語調で一葉は語っています。

時代も境遇も違いながら、運命に翻弄されつつも自分の人生を全うする

女の凛とした心の軌跡を描く珠玉の名作を、

秋の一日、幸田弘子の朗読でお楽しみください。

幸田弘子プロフィール



東京生れ。NHK東京放送劇団に入り、放送・舞台で活躍。主演した三善晃作曲、音楽詩劇「オンディーヌ」は文部大臣賞、イタリヤ賞大賞を受賞。舞台で古典から現代文学作品までの朗読を続け、1977年から毎年「幸田弘子の会」を開催、樋口二葉を中心に、「源氏物語」や泉鏡花・森鷗外・夏目漱石・瀬戸内寂聴の作品など、古典から現代まで舞台で朗読。舞台朗読という新しい分野を確立した功績に対し、81・82・84年と続けて芸術祭優秀賞受賞。さらに84年度芸術選奨文部大臣賞、95年毎日芸術賞、96年紫綬褒章、02年藤村記念歴史賞受賞。99年より「源氏物語」、「おくのほそ道」などによる「古典を読む」会の連続公演も開始している。01年から「源氏語り五十四帖」と題して「源氏物語」の原文を、彩の国さいたま芸術劇場(年6回・9年間)で読み始めている。03年秋の叙勲において旭日小綬章を受章。05年から軽井沢の大賀ホールで堀辰雄作品の朗読公演を毎年開催。

日時：平成19年10月3日(水)～5日(金) 会場：紀尾井小ホール

●開演時間 *公演日により、開演時間が異なります。十分ご注意ください。

| 10/3(水) | 10/4(木) | 10/5(金) |
|---------|---------|---------|
| 午後3時 | 午後2時 | 午後2時 |
| 午後7時 | 午後7時 | 午後7時 |

●入場料 一般4,500円 学生3,000円(全席指定)

●予約・お問い合わせ 幸田弘子の会 ☎(03)3655-2705
(10時～6時、土・日・祝休)
E-mail: kodahirokonokai@m6.gyao.ne.jp

●前売券取扱 紀尾井ホール・チケットセンター
☎(03)3237-0061
(10時～7時、日・祝休)



最寄駅
・四ッ谷駅(JR線・丸ノ内線・南北線)徒歩6分
・魏町駅(有楽町線)徒歩8分
・赤坂見附駅(銀座線・丸ノ内線)徒歩8分
・永田町駅(半蔵門線・有楽町線)徒歩8分